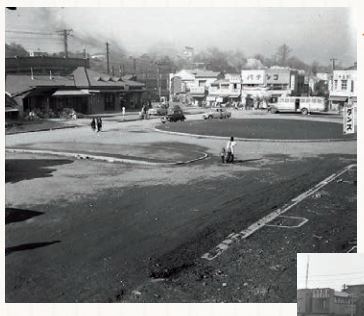
復活 懐かしいあの日あの時 想い出写真館

日暮里編

日暮里駅とその周辺

明治38年（1905）に日暮里駅は開業しました。現在のＪＲ日暮里駅は荒川区と台東区にまたがっていますが、開業時は日暮里村にあったために日暮里駅と名付けられました。日暮里駅の周辺には全盛期100軒近くの菓子・玩具の問屋街があり、子どもたちの人気スポットでした。平成23年（2011）に駅前の再開発事業が完了し、住宅と商業施設からなる３つの高層マンションが建ち並ぶサンマークシティが完成して、現在の姿に生まれ変わりました。



◀昭和31年（1956）頃の日暮里駅前は、一面広場のようでした

▶今では見ることのできない、昔懐かしいボンネットバスも写っています

▲平成７年（1995）頃の、建て替え前の日暮里駅です

▲以前に日暮里駅前にあった菓子・玩具問屋は店舗数が減り、現在は一店舗だけ高層ビルの中に移り営業をしています

◀昭和60年（1985）頃の駅前広場です。線路の向こうの遠くの景色まで見渡せます

▲平成16年（2004）頃には日暮里・舎人ライナーの鉄橋の工事が行われていました

◀現在の日暮里駅前です。各路線の連絡通路があり、利便性の高い駅になりました

Topics

吉村昭記念文学館に行ってみよう

あらかわ区報Jr.の読者のみんなは、ゆいの森あらかわに併設されている「吉村昭記念文学館」に行ったことがありますか。吉村さんは、荒川区出身でたくさんの作品を残した小説家です。吉村さんの小説には、ふるさとの荒川が登場する作品が多くあります。そして文学館では、資料をたくさん紹介しています。吉村さんの作品は、ティーンズコーナーにも置いてあります。ぜひ一度、「吉村昭記念文学館」で吉村作品の世界に触れてみましょう。

問合せ：吉村昭記念文学館

☎（3891）4349

▲吉村作品がたくさん展示されてるよ

◀荒川区出身の作家、吉村昭さん

あらかわ今昔ものがたり〔あらかわの歴史と伝説〕

[問合せ] 荒川ふるさと文化館 ☎（3807）9234

執筆 野尻さん

その127 石浜神社の疱瘡神と源為朝さんのお札

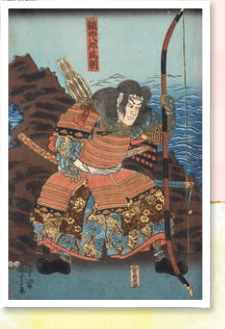
コロナの時代とアマビエ　新型コロナウイルス感染症の流行で、感染の拡大を防ぐために世界中の人たちが頑張っているね。疫病退散のご利益があると妖怪「アマビエ」を描いたお札やグッズが大流行している。身に着けている人もいるんじゃないかな。

疱瘡と赤絵　急速に広がる流行り病は、昔から、人びとを悩ませてきた。恐ろしい病は魔物のせいだと考えられていたんだよ。苦しい時は神様にお願いするしかないと「アマビエ」のようなお札を求めてお祈りしたんだ。子どもたちが罹りやすい感染症に疱瘡（天然痘）があった。感染力が強く命に関わる病で、とても恐れられていた。高熱とともに赤い発疹が出て体が火傷のように真っ赤になるんだって。この病を鎮めるために疱瘡神をおまつりしたり、赤い物が魔除けになると、衣類やおもちゃなどを赤ずくめにし、金太郎や達磨などを描いた赤絵がお守りとして買い求められたんだ。

将軍の孫の疱瘡を治した酒湯　疱瘡は将軍家の子どもたちにも感染した。八代将軍の孫が疱瘡に罹った時に、石浜神社（南千住三丁目）から酒湯が献上された。そのことが『新編武蔵風土記稿』という本に記されているよ。酒湯を浴びさせると、疱瘡が瘡蓋となって剥がれ落ちやすくなり、きれいになると考えられていたんだ。

疱瘡神と為朝さんのお札　『共古随筆』という本によると、疱瘡退散にご利益があると信じられていた源為朝さんのお札も石浜神社で授けていた。為朝さんは、平安末期の武将で弓の名人。疱瘡をやっつけてくれると信じられていたんだ。滝沢馬琴さんのベストセラー『椿説弓張月』に為朝さんが疱瘡を撃退した話が紹介され、広まったんだってさ。今でも石浜神社には、八雲疱瘡神社がおまつりされているよ。

実際に疱瘡を撃退したのはワクチンだ。日本では江戸時代の終わりごろ種痘の接種が始まり、昭和55年（1980）についに世界から根絶したんだよ。昔の人たちがどうやって厄介な病と向き合ってきたか、もっと調べてみよう。



「鎮西八郎為朝」「疱瘡神」（部分）（東京都立中央図書館特別文庫室所蔵）

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
R70 古紙パルプ配合率70％再生紙を使用